

## ■殺菌剤：農業用

シアノイミダゾール系

# ランマン<sup>®</sup>フロアブル

登録番号：20624

毒性：－

消防法：－

有効年限：3年

成分 シアゾファミド……9.4% (W/W) [10.0% (W/V)]

物理的・化学的性状 淡褐色水和性粘稠懸濁液体

包装：500ml×20 2ℓ×8

### ◆特 長

- べと・疫病などの藻菌類病害に卓越した高い防除効果を示します。
- 優れた残効性と耐雨性により、安定した効果が期待できます。
- 果面の汚れが少なく、作物や天敵、有用昆虫（マルハナバチなど）にも安全性の高い薬剤です。
- ばれいしよでは、莖葉部での優れた疫病防除効果に加え、塊茎腐敗防止効果もあります。

### ◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌)	1,000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ 1箱当り0.5ℓ)	は種時	1回	土壌灌注	1回
				発芽後～ 緑化期			
ぶどう	べと病	1,000～ 2,000倍	200～700ℓ ／10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
かんきつ	褐色腐敗病	2,000倍		収穫前日 まで			
いちじく	疫病			収穫3日前 まで			
日本なし							
小麦	褐色雪腐病	1,000倍	100ℓ／10a	根雪前	3回 以内	無人航空機による散布	4回以内 (種子への処理は 1回以内、散布 は3回以内)
		250倍	25ℓ／10a				
		8倍	0.8ℓ／10a				
あずき	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫	4回以内 (種子への処理は 1回以内、散布 は3回以内)
		1,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	
だいず	茎疫病	原液	種子重量の 1～2%	は種前	1回	種子塗沫	4回以内 (種子への処理は 1回以内、散布 は3回以内)
		1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	
えだまめ	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫	4回以内 (種子への処理は 1回以内、散布 は3回以内)
	べと病	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ ／10a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	疫病	1,000～2,000倍	100～300ℓ / 10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
		375倍	25ℓ / 10a				
		600倍	40ℓ / 10a			無人航空機による散布	
		32倍	3.2ℓ / 10a				
キャベツ カリフラワー	べと病	2,000倍	100～300ℓ / 10a	収穫3日前まで	1回	散布	6回以内 (育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は4回以内)
	根こぶ病		250ml / 株	収穫14日前まで		株元灌注	
はくさい		根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ) 当り2ℓ	定植前日～当日	1回	
	250ml / 株			収穫14日前まで	株元灌注		
非結球あぶらな科 葉菜類 なばな類 (なばなを除く)	べと病	2,000倍	100～300ℓ / 10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	3回以内
	ピシウム腐敗病						
なばな	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ) 当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)
							5回以内 (育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は3回以内)
ブロッコリー	根こぶ病	2,000倍	250ml / 株	収穫14日前まで	3回以内	株元灌注	4回以内
			100～300ℓ / 10a	収穫3日前まで			
きゅうり メロン	べと病	1,000～2,000倍	150～300ℓ / 10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
ズッキーニ		1,000倍	100～300ℓ / 10a				
すいか	褐色腐敗病	1,000～2,000倍	150～300ℓ / 10a				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数
とうがん	疫病	2,000倍	150~300ℓ /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
かぼちゃ	べと病 疫病				3回以内		3回以内
トマト ミニトマト	疫病	1,000~ 2,000倍			4回以内		4回以内
ピーマン とうがらし類		褐色腐敗病					
なす ねぎ	べと病			2,000倍	100~300ℓ /10a		
わけぎ		疫病	2,000倍			100~300ℓ /10a	
葉たまねぎ たまねぎ	べと病 白色疫病						
みょうが (花穂)	根茎腐敗病	500倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	生育期 但し、 収穫3日前 まで	3回 以内	土壌灌注	4回以内 (種根茎浸漬は 1回以内、土壌 灌注は3回以内)
		200倍	—	植付前	1回	30分間 種根茎浸漬	
みょうが (茎葉)		500倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	みょうが(花穂) の収穫3日前まで 但し、花穂を収穫 しない場合に あつては開花期 終了まで	3回 以内	土壌灌注	3回以内
しょうが		500~ 1,000倍	1~3ℓ/m <sup>2</sup>	生育期 但し、 収穫30日前 まで			
葉しょうが			2~3ℓ/m <sup>2</sup>	生育期 但し、 収穫3日前 まで			
こんにゃく		根腐病	2,000倍	150~300ℓ /10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布
畑わさび わさび	白さび病	収穫7日前 まで 畑育苗期					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数
エンサイ かぶ	白さび病	2,000倍	100~300ℓ /10a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
	べと病 白さび病						4回以内 (は種時の灌注は 1回以内、散布 は3回以内)
	根こぶ病		2ℓ/m <sup>2</sup>	は種時	1回	灌注	1回以内、散布 は3回以内)
だいこん	ワッカ症 白さび病	2,000倍	100~300ℓ /10a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
はつかだいこん	ワッカ症 白さび病 べと病						2回以内
みつば	べと病						100~300ℓ /10a
レタス 非結球レタス ほうれんそう		150~300ℓ /10a	収穫3日前 まで	3回 以内	3回以内		
バジル					100~300ℓ /10a	2回 以内	4回 以内
おかひじき		4回以内					
らっきょう	白色疫病	500~ 1,000倍	100~300ℓ /10a	4回 以内	4回 以内	4回以内	
いちご	疫病	500~ 1,000倍	50mℓ/株	育苗期	2回 以内	株元灌注	4回以内 (育苗期は2回 以内、定植後 は2回以内)
			100mℓ/株	生育期 但し、 収穫30日前 まで			
ホップ	べと病	2,000倍	200~700ℓ /10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

## ◆注意事項

- (1)使用直前に容器をよく振ること。
- (2)使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3)予防効果主体の剤なので、出来るだけ発病前又は発病初期に散布すること。
- (4)小麦、ばれいしょに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- (5)根こぶ病防除に使用する場合、発病が激しい圃場では効果が劣ることがあるので、土壌処理剤と組み合わせて使用すること。
- (6)キャベツに灌注処理する場合、品種によっては、初期に軽度の生育抑制がみられることがあるが、実用上は問題無い。
- (7)本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。

- (8) あずき、だいず及びえだまめの種子塗沫に使用する場合は次の注意事項を守ること。
- ① 使用前に容器をよく振ってから塗沫処理を行うこと。
  - ② 薬剤の使用量を守り、水等で希釈せずを使用すること。
  - ③ 塗沫処理はは種当日または前日に行なうこと。
  - ④ 薬剤が種子に均一に付着するように処理した後、すみやかに広げて乾燥させること。
  - ⑤ 本剤を処理した種子を食用など目的外に使用しないこと。
  - ⑥ 本剤処理後は種から発芽までの時期は土壌が過湿にならないように注意すること。
- (9) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (10) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
- ① 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ② 散布機種に適合した散布置置を使用すること。
  - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布置置の十分な点検を行うこと。
  - ④ 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意をし、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ⑤ 散布終了後は、次の項目を守ること。
    - (a) 使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
    - (b) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。
    - (c) 機体の散布置置は十分洗浄すること。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないこと。
- (11) 散布器具の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器等は環境に影響を与えないよう安全に処理すること。
- (12) 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (13) 本剤の使用に当っては、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ◆安全使用上の注意

- (1) 使用の際は不浸透性手袋などを着用すること。
- (2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

### ◆魚毒性

この登録に係る使用方法では該当がない。